

# あとがき

自分たちが直接に関わったせいかもしれませんが、最近身の回りで四国遍路について見聞きすることが多くなりました。素朴な問題意識をもとに手探りで始めたゼミでの勉強が文になり、それが本として形をなすなんて夢のような話です。私たちの2007年度のゼミナールの報告が出版できことになりました。ここに至るまでにはいくつもの幸運が重なっています。多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

これができるまでには学生諸君の17か月に及ぶ調査の頑張りがありました。14名という例年になく大勢の学生を受け入れた2007年度のゼミ活動は、一年余りこの調査を中心に回りました。そしてその学生諸君も今は卒業論文の作成に向けていそしんでいる時期にあたります。この調査が有形無形の形で彼らの大学生活での成長の基礎になっていると感ずることがあります。彼ら学生を取り巻いて多くの方々の温かい援助がありました。

最初に、いつも慈悲にあふれるお顔で学生を迎えてくださった根香寺のご住職の顔が浮かびます。ご住職にお礼の気持ちをささげます。参拝者のいない時にはいつも納経所で黙って本を読んでおられる姿が印象的でした。四国で修行をしている遍路を迎える温かい気持ちがいつも感じられました。副住職をはじめ多くの寺院の方々に、温かく見守っていただきました。ありがとうございました。

経済産業省四国経済産業局の方々にもお世話になりました。四国遍路が四国の経済の顔になりうるとのお考えだったのでしょう。転勤でもう四国の地を離れられましたが、井坂智夫・鎌田光治の両部長には親しく経済についてのご指導をいただきました。また独立行政法人中小企業基盤整備機構四国支部の富田豊隆部長には懇切丁寧なお世話をいただきました。厚くお礼を申し上げます。それにアンケートまで手伝っていただ

きました。四国経済産業局の吉田壮介さんにもお世話になりました。

根香寺への仲介の労を取っていただき高松市役所の北谷勇雄さんにもご面倒をおかけいたしました。

今回の思わぬ出版ができますのは、平成20年度に採択されました「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」の学生の教育成果の発表の一部を使わせていただいております。同僚の経済学部地域社会システム学科ツーリズムコースの先生方には温かく見守ってくださいました。そして今回の採択に格段のエネルギーをつぎ込まれました原直行先生にも心より感謝いたします。

2008年12月 稲田道彦